

# 日刊 動労千葉

87. 2. 12

No. 2475

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）公衆）〇四七二（二二）七二〇七

## レッドパージ攻撃を粉碎し 原則を貫き闘いぬこう！

### 2・10 団結集会が圧倒的に大成功！

三月十日、動労千葉は、千葉市民会館において、「2・10 動労千葉団結集会」を開催し、組合員・家族を中心に、来賓、動労水戸、国労共闘、千葉連絡会など四二〇名が結集し、この二月・三月の選別の時期を全組合員の団結で突破し、四月以降もさらに「分割・民営化」粉碎を掲げ、闘いぬくことを誓い合った。

来賓よりの挨拶

Ⅱ 共に勝利しようⅡ

十八時より始まった集会は、桜沢執行委員の司会のもと、まず、来賓として社会党の市川福平県議、小川義人千葉市議の両氏から、「四月統一地方選に勝利しよう」と挨拶を受け、続いて、組織内候補である中江昌夫船橋市議より「労働者は闘いなくして生活も権利も守れないことは歴史が示している。動労総連合の確たる地位を築き上げ、再び船橋において地域活動と労働運動を結合しながら共に闘いぬく」と、決意が明らかにされた。

さらに、動労水戸の辻川委員長より「当局は動労千葉や動労水戸の労働者が新会社に入ることに恐怖し、国労の労働者

基調報告する  
中野委員長

を採るなど叫ぶ

動労革マル松崎を許すことはできない。これからも動

労千葉の闘いを動労水戸において徹底的に生かしきり闘いぬく」と、全参加者に訴え、次に、動労連帯高崎からのメッセー

動労千葉の旗を守りぬき

最後まで闘いぬこう

そして、集会の基調報告にたった中野委員長は、「二月十六日より振り分けが始まろうとしているが、労働組合をつぶすという敵の攻撃が大破産した。二月二日に『鉄道労連』が結成されたが、志摩や松崎を先頭にして、極めて危機感あふれる大会となった。また、大会には国鉄の幹部が一人もこなかったが、これは裏切り者は使い捨てにされるということを物語っている。労働組合は、闘いぬく中に団結があり、動労千葉はそのことを身をもって示してきた。そして、動労千葉の旗を守りぬいて四月に突入し、清算事業団の仲間をかえせという闘いをつくりあげなければならぬ。二月から四月にかけて、もうひと踏ん張り闘いぬこう」と熱烈に訴え、参加者も拍手と歓声をもってこれに答えた。

選別攻撃には直ちに反撃を

続いて、各支部代表が登壇し、動労千葉のもとでさらに闘い続けることを決意表明した。閉会の言葉で布施書記長より「敵が選別してきたら、直ちに闘いに決起しよう」と改めて動労千葉の決意を鮮明にし、最後に、新藤青年部長による組合歌合唱、水野動労総連合委員長の音頭で団結ガンバローを三唱し、大成功のうち集会を終了した。（次号につづく）



▲この団結力で分割・民営化粉碎までたたかいぬくぞ！